

## 亜熱帯の溶岩海岸

燈瀬ビジターセンターから少し離れた所に、海岸まで下る小道があります。小道の先にある海岸部の景色は、とても日本のものとは思えません。展望台に登ると、辺りを一望することができます。背後には地域で最高峰の鬼岳が見え、頂上部分が切り取られた形になっているのが分かります。海岸線を左右に見渡すと、波打ち際に黒い岩石が連なっています。海岸に続く道には植物が生い茂っていますが、途中で途切れており、そこから先の岩場には植物が見当たりません。

## 最後の噴火

黒ずんだ岩場が並ぶ海岸線は五島列島では特に珍しくありませんが、燈瀬溶岩海岸は特別な歴史を秘めています。鬼岳をはじめとする付近の火山が約 1 万 8,000 年前に噴火を起こし、溶岩の一部が海岸まで流れてきました。

この種の溶岩はアア溶岩と呼ばれ、表面がざらざらしています。冷めて固まると、大きくでこぼこした黒い岩石になります。岩石は、溶岩から出る気体を通った穴で覆われています。また、アア溶岩はクリンカーと呼ばれる黒く鋭い破片を作り出します。海岸ではより大きな岩石の間で見ることができます。長年かけて、打ち寄せる波の侵食により岩が細かく砕かれ、大小・形さまざまな火山岩が分布するようになりました。

鬼岳をはじめとする辺り一帯の火山の噴火は、火山岩のみならず、7km に及ぶノコギリ状の海岸線や、いくつもの入り江を作り出しました。対馬海流のおかげで燈瀬溶岩海岸の気温は現在島で最も高く、亜熱帯植物も生息しています。

## 藩主の逃げ道

燈瀬のもう一つの特徴は、その名前の由来です。「燈の浅瀬」を意味し、海岸と馬との関連を示唆しています。言い伝えによると、1507 年、謀反を起こされた藩主が逃亡を試みました。藩主は海岸で馬を走らせていましたが、この場所で片方の燈が切れてしまいました。漁船で近くの島に逃れたものの、捕らわれるよりはと、腹を切りました。「燈の浅瀬」の言い伝えはこのようにして生まれたのです。

歴史的な言い伝えなど予備知識の有無に関わらず、鏝瀬溶岩海岸は必見のスポットです。もちろん、ビジターセンターで五島列島の地理や動植物、地質的な由来など、全体像を掴んでからでもお楽しみいただけます。